

『古代アメリカ』2, 1999, pp. 87-92

<コメント>

古典期マヤ国家の政治経済組織と古代マヤ都市の性格の より良い理解にむけて

—杓谷茂樹氏のコメントに応える—

青山和夫

(茨城大学人文学部)

1. はじめに

本誌1号に掲載された拙論文[青山 1998]に関するコメントを執筆された杓谷茂樹氏にまず御礼申し上げたい。とはいへ杓谷氏の指摘や批判には少なからず誤解が含まれ必ずしもうなづけるものではないので、この場を利用して反論と補足説明を試みたい。最初に同論文執筆の経緯を説明すると、1996年にピツバーグ大学人類学部大学院に提出した636ページにおよぶ博士論文[Aoyama 1996]の要旨を日本語で紹介するために、その一部を修正加筆し11ページの研究ノート[青山 1997]として『民族学研究』に出版した。しかし、博士論文要旨の日本への紹介としては「短すぎるので」という御指摘を何人かの方々から受けていた。拙論文は、そうしたところに本誌編集者代表の関雄二氏から古代アメリカ研究会の第2回研究発表会(1997年5月)における口頭発表を論文化する機会を与えていただいたので、博士論文のエッセンスをより良く日本語で紹介すべく字数制限内で修正加筆してまとめ上げようと試みたものである。とはいいうものの、やはり38ページの論文で博士論文の1から10までを紹介することは不可能であるので、説明不足の箇所もある。さらにデータと解釈の詳細を知りたい読者諸賢は、博士論文、または英語とスペイン語の二国語でピツバーグ大学のMemoirs in Latin American Archaeologyの一つとして出版される修正加筆最新版[Aoyama 1999a]を御覧いただきたい。また、博士論文研究の様々な側面については、英語[Aoyama 1997]とスペイン語[Aoyama 1998, 1999b]でも既に発表しているので参考にしていただければ幸いである。

2. 古典期のテオティワカンとマヤ低地の交流

この二つの文化間の交流の性格に関する蓋然性の高い仮説として、(1)テオティワカン人またはテオティワカン人と関係をもった非マヤ低地人がマヤ低地社会に何らかの政治的影響力をもった[Coggins 1979]、(2)マヤ低地で王権の誇示にテオティワカン的な文化要素が利用されたのであり、テオティワカンによるマヤ低地への政治的介入はほとんどなかった[Demarest and Foias 1993]の二つが挙げられる。杓谷氏は後者の立場を取っている(p.82)ようだが、これは論争中の問題でありまだ定説がないというのが研究の現状であると考えられる[青山・猪俣 1997:101; サブロフ 1998: 112]。

コパンのヤシュ・クック・モ王の出自について、筆者は「外来人」(テオティワカン、またはテオティワカンと直接的な関係を持ったセンター出身)と「地元出身」の二つの可能性を挙げている

(pp.26-27)。杓谷氏は前者について懷疑的であり「言及」さえ避けるべきだとしている(p.82-83)が、これもまた論争中の問題でありさらなる検証が必要である[青山・猪俣 1997:104]。この問題に関してFash夫妻やSharerをはじめとするコパン・アクロポリス考古学プロジェクトの主要研究者たちはどう考えているかというと、1997年5月にハーバード大学ピーボディー博物館で開催されたシンポジウム「二都市の話：コパンとテオティワカン」(A Tale of Two Cities: Copan and Teotihuacan)で得られたコンセンサスにも見られるように、実は「外来人」仮説を好んでいるのである。その根拠としては、「テオティワカン様式」の土器やパチューカ産緑色黒曜石製石器のような持ち運び可能な遺物がコパン谷の村落部よりも都市部、特にコパン遺跡の「中心グループ」に集中していること、コパンのアクロポリス内でテオティワカン的な衣装をまとった図像およびヤシュ・クック・モ王がコパン出身ではなかった可能性を示唆する碑文が発見されたこと[青山・猪俣 1997:104]、コパンのアクロポリスの中核を形成する最初の建造物であるフナル(Hunal)基壇がコパン谷に前例のないタルー・タブレロ様式であること、さらに同基壇内の墓から出土したSharerらがヤシュ・クック・モ王と想定する人骨の化学分析によると同人物は外部出身であった蓋然性が高いこと[Davis, personal communication 1998]などが挙げられる。

一方、杓谷氏は、コパンやティカル、エズナー、エル・ミラドールをはじめとする諸都市が「テオティワカンから直接緑の黒曜石を獲得していたとは現時点では考えにくい」(p.83)としているが、こうした交流が直接的であったのか、間接的であったのかさえ未解決な問題なのである[サブロフ 1998:112]。なお、杓谷氏が自説を導き出すために引用しているVail[1988: Table 4]の古典期前期マヤ低地における黒曜石の産地に関する表の各遺跡／地域のデータのほとんどは、筆者が拙論文で指摘しているような(p.9)、サンプル数の少なさや不適当なサンプル選定法のために黒曜石の交換研究を曖昧にしてきた典型例である。たとえば、エズナー遺跡出土の黒曜石製石器のサンプル数は9点（その内緑色2点）、エル・ミラドール遺跡のそれは19点（その内緑色6点）に過ぎない。一方、一遺跡や一地域から出土した少数の黒曜石製石器サンプルの化学分析による産地同定の結果に肉眼でパチューカ産と同定した緑色黒曜石製石器数を加えて各産地の黒曜石の比率を算定したり、できるだけ少ない黒曜石製石器サンプルからできるだけ多くの産地を化学分析で同定するために肉眼で区別し得る特徴的な黒曜石を作為的に標本抽出するといったような、大きなサンプリング・バイアスを生み出す不適当なサンプリング選定法がメソアメリカの黒曜石の交換研究において少なからず行われてきたことが指摘されている[Drennan 1996:91-93; Drennan et. al. 1990: 180]。筆者は、こうした先行研究から脱却するために、コパン谷という一地域全体を代表し得る大量の黒曜石製石器の中性子放射化分析と肉眼による原産地同定（後者は「全ての」黒曜石製石器に対して行った）を組み合わせて、地域間の比較だけでなく地域内や遺跡内の黒曜石の流通・消費パターンを詳細に検証しようとした(p.9)ことを改めて強調したいと思う。

また、筆者は、ヤシュ・クック・モ王の命によって建築されたヤシュ(Yax)という一建造物から出土した緑色黒曜石製石器の全黒曜石製石器(N=82)に占める高い比率(9.8%)を、杓谷氏のように(p.83)過小評価すべきではないと考える。この比率は、筆者らが少なくともテオティワカン人が実際に訪れたこともあったと考えるティカル[青山・猪俣 1997: 103]のグループ6C-VXIのPNT-019一括黒曜石製遺物中の緑色黒曜石製石器の比率(30.7%, 228/743点[Laporte 1988:170, 172])よりは低いが、マヤ低地の南東端にあるコパンよりもはるかにテオティワカンに近くサントリーら[Santley 1989: 140]がテオティワカンの飛び地領であったとするマタカパンの6%やグアテマラ高地のソラーノ 7.9%[Brown 1977: 242, 272]よりも高いのである。また、多くの研究者がテオティワカンと何らかの

直接交流があったとするカミナルフユでは、「マウンドA・B」から85点の緑色黒曜石製石器が出土しているに過ぎない[Kidder et al. 1946:136,138]。さらに、コパン近隣では黒曜石製石器中の緑色黒曜石製石器は皆無に等しく、たとえばキリグアでは0.06%(4/7039点[Stross et al. 1983:335])、ラ・エントラーダ地域では0.06%(5/8661点[Aoyama 1996: 217])、チャルチュアパでは0.05%(20/40000+点[Sheets 1978: 13])である。こうしたデータから（および拙論文では触れなかった上記の土器、図像、碑文、建築、形質人類学のデータを加えて）、筆者は、ヤシュ・クック・モ王が緑色黒曜石製石器をテオティワカンから「直接獲得」した「蓋然性が高い」(p.27)、コパンの初期の王達はテオティワカンと「直接交流」したと「推測される」(p.29)と記述しているのであり、杓谷氏が誤解しているように「言い切」っている(p.83)のではない。さらに、古典期中期のコパン谷出土の緑色黒曜石製石器の型式組成がティカルやカミナルフユのそれと大きく異なることが注目される。特にコパン谷の両面加工のポイントの比率(2.7%[Aoyama 1996: 217])は、ティカルの比率(13.8%[Moholy-Nagy et al. 1984: Table 1])とカミナルフユの比率(18.8%[Kidder et al. 1946: 136,138])よりもはるかに低い。このことは、直接的にせよ間接的にせよ、テオティワカンとコパン王朝が、ティカルやカミナルフユとのそれとは異なった交換システムを維持していたことを意味するのかもしれない[Aoyama 1996:217]。

3. マヤ地域内のイシュテペケ産黒曜石の交換

この問題は、拙論文の範囲を越えているので短くコメントしたい。「コパン以外でイシュテペケ産の黒曜石を大量に流通させることのできた存在が考えられない以上、コパンがマヤ地域内交換のための財源としてイシュテペケ産の黒曜石を利用していた」(p.83)という杓谷氏の粗雑で強引な論理は、あたかもコパンがマヤ地域内におけるイシュテペケ産黒曜石の交換を独占していたかのようで同意できない。また、杓谷氏が誤解していると思われる箇所を指摘すると、筆者がコパン谷において「他地域への輸出を示唆するような大規模な」生産規模でなかったとしているのはイシュテペケ産黒曜石製「石刃」の生産であり(pp.16,30)、原産地で直接生産・獲得し少なくともラ・エントラーダ地域をはじめとする近隣の中心センターに「輸出」（供給）して、杓谷氏が述べるようなコパンの「財源」になったのは主に「石刃核」であった。こうした「地域間」交換の一部の詳細かつ実証的な検証は、コパン谷とラ・エントラーダ地域というそれぞれの地域において全ての社会階層が使用した黒曜石製石器を代表し得る大量のサンプルの定量的なデータの分析によってのみ達成可能になったのであり、杓谷氏が指摘するように残念ながら現在のところ「古代マヤ研究において、ほとんど唯一といつてもいい」(p.82)研究成果なのである。杓谷氏が言及するようなマヤ地域全体のイシュテペケ産黒曜石の交換をより明確に検証するためには、イシュテペケや隣接するパバルワバ遺跡とその周辺地域、マヤ地域内の近隣・遠隔諸地域におけるさらなる地道な研究が必要不可欠であるといえよう。

4. 古典期マヤ国家の政治経済組織と古代マヤ都市の性格

杓谷氏の誤解を最も多く含んでいるのが、拙論文の「結論」(p.29-30)に関するコメントである。まず、古典期マヤ国家の権力基盤を巡る「経済決定論」と「イデオロギーを重視する立場」という単純な二者択一のうち、筆者が前者の立場に立つという杓谷氏の指摘(p.83)は全くの誤りである。筆

者は、「交換が経済的のみならず宗教的・社会的側面をも同時に持つ」(p.21)ことを明確に述べている。たとえば、拙論文でも触れたコパン中心グループの中央広場から出土した700点以上のイシュテペケ産黒曜石製の特大の大型石刃と大型剥片(p.20)の剥離と埋蔵には儀礼を伴った可能性が示唆されており、王の大きな経済的・宗教的権力を誇示したと考えられる[Aoyama 1996: 331-333]。大変残念ながら、この誤解がそれ以降の氏のコメントにさらなる誤解を生み出し、筆者の主要な論点から逸脱してしまっている。筆者が「タンバイヤやギアツの議論の行き過ぎを正そうとしている」(p.83)という指摘も誤解である。筆者が批判しているのは、Demarest[1992]らがイデオロギーをSandersとWebster[1988]が血縁関係や個人的な関係網をそれぞれ重視する余りに、古典期マヤ国家による経済活動の統御や古代マヤ都市の経済的機能を軽視していることである。

古典期マヤ国家の政治経済組織の復元は極めて困難な作業であり[猪俣・青山 1996: 383; Inomata and Aoyama 1996: 307]、拙論文も「極めて複雑な古典期マヤ国家や古代マヤ都市の政治・経済組織やその変化の一侧面に焦点を当てた」ものに過ぎず、「今後古代マヤ国家による経済活動の統御やその権力基盤に関する仮説を検証するためには、異なる交換財の流通形態を綿密に分析する」とともに、建築、セトルメント・パターン、碑文、図像学などをはじめとする「その他の分野の研究をさらに綿密かつ総合的におこなっていかなければならない」のである(p.29)。筆者の第一の結論(p.30)は、こうした前提に立った上で、黒曜石産地から遠く離れ遠距離交換によって黒曜石を獲得したマヤ低地中央部や北部とは対照的に、「少なくとも」古典期マヤ国家コパンでは、基本的に全ての社会階層に流通した生活必需品であったイシュテペケ産黒曜石の石刃核の獲得・流通に関して、イデオロギーおよび血縁関係や個人的な関係網「だけ」に基づいていたのではなく、血縁関係を超えたかなり中央集権的な統治機構が発達していたと思われることである。さらにSandersとWebster[1988]が全ての古代マヤ都市は王政儀式都市でありコパンをその典型例として論じているのとは対照的に、その他の主要マヤ都市と大きな対照をなすこうした古代都市コパンの政治的・経済的機能の一侧面は、人口の大小に関わらず、王政儀式都市という一型式学的概念だけでは説明できない古代マヤ都市の機能の多様性を示しているかもしれないというのが第二の結論である。

5. おわりに

最後に、草創期の古代アメリカ研究会のさらなる発展を祈りつつ、論文のコメント一数について提言したい。経費その他の要因からCurrent Anthropologyのように10数人によるコメントを掲載することは不可能だが、できれば複数の方々のコメントを掲載してみてはどうだろうか。その際、同一地域や分野だけでなく、アンデスとメソアメリカといった異なった地域、先史学と民族史学や民族学といった異なった分野のコメント一もいれば相互に視野を広め学術交流をさらに深めることができると思う。御検討いただければ幸いである。

引用文献

青山和夫

- 1997 「交換と古代マヤ国家形成－東南マヤ低地出土打製石器の事例研究－」『民族学研究』62(1):22-32.

- 1998 「交換、複合社会、古代マヤ都市—先コロンブス期マヤ低地における打製石器の通時的研究」『古代アメリカ』1:3-40.
- Aoyama, Kazuo
- 1996 *Exchange, Craft Specialization, and Ancient Maya State Formation: A Study of Chipped Stone Artifacts from the Southeast Maya Lowlands.* Ph.D. dissertation, University of Pittsburgh, Pittsburgh.
- 1997 Ancient Maya Political Economy: Obsidian Evidence from the Southeast Maya Lowlands. Paper presented at the 62nd Annual Meeting of the Society for American Archaeology, Nashville, TN (to be published in *Mesoamerican Obsidian: A Consideration of the Cutting Edge*, edited by Thomas Barrett. University of New Mexico Press, Albuquerque).
- 1998 La Especialización Artesanal y la Formación del Antiguo Estado Maya: El Análisis de la Lítica Menor en el Valle de Copán, Honduras. Paper presented at the Cuarto Congreso Internacional de Mayistas, Antigua, Guatemala (to be published in *Memorias del Cuarto Congreso Internacional de Mayistas*. Universidad Nacional Autónoma de México, Mexico).
- 1999a *Ancient Maya State, Urbanism, Exchange, and Craft Specialization: Chipped Stone Evidence of the Copan Valley and the La Entrada Region, Honduras.* University of Pittsburgh Memoirs in Latin American Archaeology No. 12. University of Pittsburgh Press, Pittsburgh (in press).
- 1999b El Intercambio y la Formación del Antiguo Estado en el Sureste de las Tierras Bajas Mayas: La Evidencia de la Lítica Menor. In *XII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, edited by Juan Pedro Laporte and Héctor L. Escobedo. Ministerio de Cultura y Deportes, Instituto de Antropología e Historia, Asociación Tikal, Guatemala (in press).
- 青山和夫・猪俣健
- 1997 『メソアメリカの考古学』同成社, 東京。
- Brown, Kenneth L.
- 1977 The Valley of Guatemala: A Highland Port of Trade. In *Teotihuacan and Kaminaljuyu: A Study in Prehistoric Culture Contact*, edited by William T. Sanders and Joseph W. Michels, pp. 205-395. Pennsylvania State University Press, University Park.
- Coggins, Clemency C.
- 1979 A New Order and the Role of the Calendar: Some Characteristics of the Middle Classic Period at Tikal. In *Maya Archaeology and Ethnohistory*, edited by Norman Hammond and Gordon R. Willey, pp. 38-50. University of Texas Press, Austin.
- Demarest, Arthur A.
- 1992 Ideology in Ancient Maya Cultural Evolution. In *Ideology and Pre-Columbian Civilizations*, edited by Arthur A. Demarest and Geoffrey W. Conrad, pp. 135-157. School of American Research Press, Santa Fe, New Mexico.
- Demarest, Arthur A., and Antonia Foias
- 1993 Mesoamerican Horizons and the Cultural Transformations of Maya Civilization. In *Latin American Horizons*, edited by Don Rice, pp. 147-192. Dumbarton Oaks, Washington, D.C.

- Drennan, Robert D.
- 1996 *Statistics for Archaeologists: A Commonsense Approach*. Plenum Press, New York.
- Drennan, Robert D., Philip T. Fitzgibbons, and Heinz Dehn
- 1990 Imports and Exports in Classic Mesoamerican Political Economy: The Tehuacan Valley and the Teotihuacan Obsidian Industry. In *Research in Economic Anthropology*, Vol. 12, edited by Barry Issac, pp. 177-199. JAI Press, Greenwich, CT.
- 猪俣健・青山和夫
- 1996 「先産業社会における空間配置と経済効率原理—古典期マヤ社会についての中心地分析一」『民族学研究』61(3):1-21.
- Inomata, Takeshi, and Kazuo Aoyama
- 1996 Central-Place Analyses in the La Entrada Region, Honduras: Implications for Understanding the Classic Maya Political and Economic Systems. *Latin American Antiquity* 7:291-312.
- Kidder, Alfred V., Jesse D. Jennings, and Edwin M. Shook
- 1946 *Excavations at Kaminaljuyu, Guatemala*. Publication No. 561. Carnegie Institution of Washington, Washington, D.C.
- Laporte, Juan Pedro
- 1988 El Complejo Maník: Dos Depósitos Sellados, Grupo 6C-XVI, Tikal. In *Ensayos de Alfarería Prehispánica e Histórica de Mesoamérica*, edited by M. C. Serra and C. Navarrete, pp. 97-188. Universidad Nacional Autónoma de México, Mexico.
- Moholy-Nagy, Hattula, Frank Asaro, and Fred H. Stross
- 1984 Tikal Obsidian: Sources and Typology. *American Antiquity* 49:104-117.
- サブロフ, ジェレミー・A.
- 1998 『新しい考古学と古代マヤ文明』(青山和夫訳) 新評論, 東京。
- Sanders, William T., and David L. Webster
- 1988 The Mesoamerican Urban Tradition. *American Anthropologist* 90:521-546.
- Santley, Robert S.
- 1994 The Economy of Matacapan. *Ancient Mesoamerica* 5:243-266.
- Sheets, Payson
- 1978 Artifacts. In *The Prehistory of Chalchuapa, El Salvador*, Vol. 2, edited by Robert J. Sharer, pp. 1-131. University of Pennsylvania Press, Philadelphia.
- Stross, Fred H., Payson Sheets, Frank Asaro, and Helen V. Michel
- 1983 Precise Characterization of Guatemalan Obsidian Sources, and Source Determination of Artifacts from Quirigua. *American Antiquity* 48:323-346.
- Vail, Gabrielle
- 1988 *The Archaeology of Coastal Belize*. BAR International Series 463, Oxford.